

おたふくかぜで難聴に！

ワクチンで予防しよう

おたふくかぜは、流行性耳下腺炎やムンプスとも呼ばれ、ムンプスウィルスの感染でおこる病気です。発症すると顔が腫れ、おたふくのようにみえます。

★主な症状は？

- ・2～3週間の潜伏期の後に、耳の下(耳下腺)やあごの下(顎下腺)などの唾液腺が腫れます。
多くは左右ともに腫れますが、片方だけのこともあります。
約1週間で腫れがひきます。
- ・熱は普通2～3日で下がりますが、出ないこともあります。



★合併症

- ・日本外来小児科学会の研究では、**1000人に1人が難聴**になることがわかりました。
- ・日本耳鼻咽喉科学会が、2015年から2年間、おたふくかぜによる難聴の全国規模の実態調査を行いました。
この調査で、おたふくかぜによる難聴が336人と診断され、予想していたより患者数が多いことがわかりました。
そのうちの約8割(261人)が高度の難聴になり、両側難聴となったのが16人(5%)、そのうちの12人は日常生活に支障が出たため、補聴器や人工内耳を必要としました。
難聴の発症年齢は学童期に多く、10歳未満が151人をしました。

＊ おたふくかぜの難聴は治りにくいです。かかったら、発症から2～3週間後、片方ずつ耳の聞こえを確認しましょう(ささやき声や携帯電話などを利用)

★他の合併症

- ・無菌性髄膜炎(1～10%)熱と頭痛と嘔吐が続きます。
- ・まれに髄膜脳炎(0.02～0.03%)を起こし、脳障害を残したり、死亡したりすることがあります。
- ・精巣炎(思春期以降、20～40%)、卵巣炎(5%)、睪炎(4%) (国立感染症研究所より)

★予防にはワクチンが有効です！

- ・1歳になったら、おたふくかぜワクチンを受けましょう。
- ・おたふくかぜワクチンも2回接種が必要です。